

年が明けたと思ったら、はやプロ野球のキャンプ到来となりました。ひいきチームの今年の成績は如何にと気になりはじめる季節です。プロ野球は、国内のみならず海を越えた大リーグでの日本人選手の活躍もより一層期待されますが、医療界も少しでも改善されるよう願わずにはおれません。

九州医師会連合会の報告を安里哲好常任理事からなされていますが、唐澤祥人日本医師会会長の特別講演にあるように、我が国の社会保障関係の拠出金は少ない。国民一人あたりの医療費はアメリカの半分よりはるかに低く、欧米先進諸国に比し2/3どまりである。世界に冠たる医療を、医療者側が如何に献身的に提供しているかが誰も解る筈なのに、行政は財政難を盾に診療報酬削減、病床削減を進めている。厳しい状況ではあるが、医師会が強力に働きかけて社会保障費の増額を実現してほしいものです。

その様な中、永年勤続医療従事者の表彰式について嶺井進常任理事が報告されています。厳しさの増す医療状況の中で20年同一施設で勤続されたコメディカルの方々98名が表彰されたそうです。きっと医療技術はもとより、患者さんおよびドクターとのコミュニケーションがよくとれた方々でしょう。その献身的仕事ぶりが推察されます。

今山裕康理事は第2回日本糖尿病対策推進会議の模様を報告されていますが、対策の効率ある実践と共に、全国および各都道府県医師会が国民の健康保持対策をリードしている事を、積極的に国民にアピールしましょう。

「アナフィラキシーに関する治療の最前線(エピペンの紹介)」について嘉数朝一先生が述べられていますが、我々プライマリケア医はできるだけ講習を受け、アナフィラキシーに陥った患者に即座に対応できるよう備えたいものです。

「生涯教育コーナー」では平敏裕先生が「リハビリ入院期間中の合併症としての変形性膝関節症に対する装具の積極的使用—『膝を守る』を目指して—」について詳述されています。今後、益々高齢者が増える事から、その方たちのADL・QOLの重要性は論を待ちません。該当する患者さんにはより元気で快適な生活を送れるよう、装具の積極的活用を勧めたいと思います。

インタビューコーナーでは、八重山地区医師会会長の仲間健二先生が登場していますが、とりわけ医師不足問題に御苦労があるものと思われまます。古くて新しい問題です。県や医師会をはじめ県民全体で考え、早急な永続的解決を望みます。

甘口・辛口コーナーでは、砂川恵栄先生が、看護師内診問題を取り上げています。お産に伴う、いわば綱渡りの医療が何時おこるか常に油断のできない現場が理解できます。そのような中で、これまで永年にわたり日常診療でおこなわれてきた医師指示下での看護師内診が違反だとする見方は、現在の医療状況を理解していない者のいわば無責任な意見あるいは利己的政治的意図と思います。先生の御意見通り、「医師指示下での看護師内診は違反ではない」と厚生省医政局に働きかけ、明示通達すべきと考えます。

リレー随筆コーナーでは、真栄城徳秀先生に「快適睡眠を目指して」の投稿をいただきました。睡眠はいうまでもなく、健康に重要な要素です。紹介して頂いた色々な知見を参考にして快適な睡眠をとるよう心がけたい。

随筆コーナーでは、濫佐隆先生には「総合内科医と高齢者医療についての独り言」をいただきました。高齢者の診療に際しては寝たきり防止についても配慮するよう、改めて努めたいと思います。

広報委員 久場 睦夫